
転校生には分かんない ♪

Apple Of My Eye

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転校生には分かんない♪

【Nコード】

N2275M

【作者名】

Apple Of My Eye

【あらすじ】

平和 快青 新蘭

転校生がプレイボーイで、3人に恋！！
その3人ってまさか！？

The New Guy Who is a ○○○ (前書き)

原作カップリングですので、苦手な人はバックでお願いします。

The New Guy Who is a ○○○

「コラー!!!起きなさい!!!新ー!!!」

「ねみーよお。。つつうか何でおめーがいんだよお」

蘭はだめいきをついた。

「今日月曜日ですけど。。」

「げ、まじ!?!?!?俺支度してくっから待ってる」

「はいはい。。」

21B教室

「朝から一緒!」

「蘭、工藤君あきないの?」

「ラブラブ夫婦だなー」

「ちがうノノノノ」

顔を真っ赤にして否定する二人を信じる人誰一人もないけど。。

「朝からあつつあつねーvv」

「幼なじみだもん」

「ただの幼なじみだよお!!!」

「只のバカッブルにしか見えないけど?」

「園子!!!ノノ」

そこに先生が来た。

「転校生だ、優しい

くしてやれ」

「アメリカから来ました、山田雄大（やまだゆうた）です。
よろしく」

「席は。。」先生は一瞬教室を見回した。

「毛利のとなり。。だな。。」

「宜しく」

「はい。」

雄大は内心ガッツポーズした。

' yes!! I get to sit next to this
shot chick, she looks hellan
ice too, damn, im lucky, im go
ing to make her mine! (よっしや、こんな
いける子の隣だぜ、めっちゃやさしそうだし、俺ラッキー、こい
つ、おれのものにしちゃうぜ)・
とか思ってた。りして。。

山田はこの後、HR始まってすぐいつちゃった新一が帰ってくると
どうなるかしらなかった。。

I Choose Her!! (前書き)

和葉ちゃん 青子ちゃんそして 志保!?!? でちゃいます!!

I Choose Her!!

：火曜日：

「おはよう、毛利さん!!」

「おはよう山田君」

蘭はちよつと、嫌結構機嫌悪いようだ

「山田君、今蘭ちゃんきれてんねんからそつとしてーな」

和葉は注意した。けど、

「毛利さん、何で怒ってるの？僕、機嫌直してあげるvv遠山さんも忠告ありがとうvv」

すると冷たい声が後ろからした。

「あなたが蘭さんの機嫌なんかなおせないわ、工藤君がらみだしね」

「志保ちゃん！せや、工藤君に関係あるんや！山田君は解決できへん!!あたしだって今平次にきれてんやから。はあああああ
あ!!!!!!」

電柱に穴が。。2つ。。あれ？

「何で2つもあいてんの？」

「蘭さんが空手技繰り出したんでしょうね、ま、命を大切にすればなら近寄らないことね、あの2人に」

「は、はい・・・」

俺は冷や汗をかいた・・・とんでもない人をアプローチしようとした。それを呼んだかのように宮野さんが、

「アプローチはやめなさい、あの2人と工藤君と服部君にもやられるわよ」

「な、なんで知ってたの!？」

「I have my sources」（私は情報源があるのよ）ウフフ」

俺はとんでもないやつにかかわった。3人へのアプローチはやめよ

う。。でも。。でも、俺青子ちゃんの本気で好きになったかも・こいつ、だけは、あきらめられない。。

こいつだけは本気。黒羽って人とはただの幼馴染らしいし

よし！！決めた！！おれの狙い（ターゲット）は中森青子に決定！！！！

I Choose Her!! (後書き)

A「快斗、がんばって」

快「がんばんのはおめーだろ!？」

A「bullshit．its up to you」うそ。あんた次第よ」

快「BUT YOU CHOOSE HOW WE ACT(あなたが全部決めてるだろうが!!)」

A「yes, but all you have to do is be nice, then ill help you)そうだけど、やさしくすればいいこと書いてあげるけど?」

快「Devil(悪魔)」

A「say what you want, i CAN kill you off and make you never able to meet Akoko again you know(いいわ。あなたを殺して青子と会えなくさせるてもいいけど?)」

快「shit．．(くそ) すみません」

Help From a Mad Scientist

p r r r r r

何だ？俺のけいたい？誰だ？

「宮野志保」　なんだ、宮野か。。　つてえええ！！！！？！？

『なんだよ』

『そんないやなら青子さんの話だけど教えないわよ』

『青子！？』

『相変わらず彼女バカね』

『うつせーほつとけ、つつつか何？』

『マッドサイエンティストからの予告』

『何だそりゃ？』

『あの転校生青子ちゃんねらってるわよ。気をつけなさい。』

『うつそー！！！！？！！？　蘭ちゃんや和葉ちゃんじゃなくて？』

『あの2人は強くて引いたらしいよ』

『げ、よりによって青子かよ。。。』　俺は正直機嫌悪くなった。二

ヤロー。。

『せいぜい気をつけなさい』

ピ。。。一方的にきりあがった

「ちっ、何とかしなきゃな」

そしておれは思いついた。とんでもない、ばかな作戦を。

『新一？』

『ああ？』

『ちよつとお願い！！転校生が。。。つてなわけで』

『だから？』

『だ・か・ら、俺の親友として。。。。をやらせてもいいか？』

『俺はやだ』

『じゃ、蘭ちゃんナンパされても知らん振りするもん』

『っち、わーった、でも蘭次第だぜ？』

『もう連絡した!』

『お前青子ちゃんのためならすげー行動力だな・・・』

『ほっとけ／＼』

『んじゃーな』

ピ・・・作戦開始!!!!

Help From a Mad Scientist (後書き)

A「your plan is really stupid
ou know.」(あなたの作戦バカっぽいわよ)「

快「shut up」^{ほったけ}

A「oh, and Aoko was asking・why
do we have to pretend?」(青子が、何
で振りをするの?だつて)「

快「whatever, it'll be alright」(何と
かなるさ)「

A「says you・i dont care if she
dumps you you know.」(捨てられてもしらな
いよ)「

快「WE ARENT GOING OUT」(付き合つてねーし!)

「
A「oh yeah.」(そっか)「

快「you have a screw loose」(頭おかしい
よ)「

新「so do you. if you keep talki
ng like that, shell make aoko
like that yuta guy」(おめーもだろ、そんなこ
と云つてたらあいつ、青子ちゃんを山田のこと好きにさせるに決ま
つてるだろ?)「

A「so true, but aoko might not
like that.」(うん!でも青子ちゃんが喜ばないかも。

)(次回もよろしく願います!「

Shiho's Boy?

私は宮野志保。帝丹高校3-A。工藤君たちの先輩って、前まで一緒に小学生だったから不自然だわ。

今日は転校生がくるらしいわ。名前は黒澤高貴 私のものになりました。

「おれ黒澤」

「私は宮野」

あの人授業中寝てたから、

「大丈夫なの？」って聞いたたら

「お前だって本読んでるだろ？」

「私は科学者。暇つぶしに高校きてるのよ」

「じゃあ話ははやい。科学者って、アメリカとかでスキップしただろ？おれもそうなんだよ。一応スタンフォード、ハーバード、オックスフォード受かってるし？」

「あら、そうなの。あなたもマッドサイエンティストってところかしら？」

「ああ」

「あなた、なんとなく気に入ったわ」

「それは光栄です、姫様」

「意外ときざ？」

「・・・ほっとけ」

私、緊張してる？彼といるとときどきするわ。。気に入ったって言い言っちゃったし。。何？この感情？

oooooooooooooooooooo

宮野。。志保か。。

同じ科学者なんてめったにいないし。。

気に入ったって言うてくれたとき、すぐときどきしてうれしかった。。

鈍感な俺でも気づいた。これは恋愛感情だ、と。

Shiho's Boy? (後書き)

A「wow . just confess your love
already (告れば?)」

高「she wont like me (俺なんか無理だよ)」

A「negative guy (ネガティブ野郎)」

高「shut up (だまれ)」

A「I think you like each other ,
and I M the Author so you shou
ld believe me . (私は両思いだと思うし、私作者だし、
信じたほうがいいよ)」

高「SHE likes ME? (あの子が俺を?)」

志「HE likes ME? (あの人が私を?)」

A「see? (ほらね?)」

高志「///」

A「you guys like each other!! (両

思いだよ!!!)」

高志「次回もよろしくおねがいします!」

A「逃げるなよー」

B a c k T o K a i t o ' s P l a n (前書き)

快斗の作戦のメモ

Back To Kaito's Plan

oooo作戦oooo

1・俺の天才的変装術をつかって、青子を蘭ちゃんに、蘭ちゃんを青子に変装させる

2・青子（蘭ちゃん）に山田がみてるとき、空手わざをやってもらう

3・山田を引かせる

4・青子を俺のにする

oooo告白oooo

ええっと

「俺は青子が好き！！大好き！！でも俺KIDなの。」
いや、ライトフックが飛んでくるな・・

「俺の親父殺された。」

ちよつと重いな・・

「おれの人生の光は青子だ、好きだぜ！！」

ちよつと無理があるな。

ああああ！！！！わかんねー！！！！！！！！

新一にメールしよう

パパプピパプピ

（告白の言葉どうしよう）

prrrrrr

（俺がしるかよ！！！！）

ち、まいっか？作戦成功させたらのりでいいこー！！のりだ、のり！！！！

Back To Kaito's Plan (後書き)

A「you didnt think of the words,
” i like you”? (好きですが思いつかなかったの?)

快「OH!!!!!! (あ!!)」

A「idiot.. (あほ)」

快「shut up (だまれ!)」

新「you really didnt think of those 3 words? (本当にその4文字思いつかなかった?)

平「that's really idiotic, man」
ほんまあほやで

A「i know right? (だよな?)」

快「SHUT UP!! AH!! (だ!!! うっせ!!)」

A「your fault for being stupid.

(ばかな自分が悪いんじゃない)」

志「all of you shut up.
みんなだまって次回も」

高「よろしくおねがいします!」

新快平「誰だお前?」

A「志保んとこの転校生」

Shiho in a Pinch

快斗のミス。

それは志保に作戦を伝えなかったこと。

—————

「ねえ、あなたが山田君？」

「は、はい。宮野先輩でしたっけ？」

「ちよっときなさいいいものみせてあげる。」

「は、はあ。。」

「中森さんに関するね」

「……」

私はこの山田って人を屋上につれてったわ。

「ほら、覗いてごらん。」

それは青子さんたちがお弁当食べてるところだった。

「快斗、おいしい？」

（よ、び、す、て？しかも中森ちょー可愛い顔してる……）

「んーまあ、いけんじゃね？」

（こいつありがたみをもてよ、こんあ可愛い子に弁当つくってもらえて……）

「よかった♪不味くなくって」

「お子様が料理できるとはね。。」

「なによ、バ快斗……」

「おっ、今日はピンク……！可愛いぜ、ピンクは♪」

「人のスカートめくくんないで……」

「（ドン……）げっ……！お前どこからモップ持ってきたんだあ……！？」

「秘密♪エッチな快斗には教えないもーん」

「わかった？」

先輩のことばで俺わ我に戻った。

「はあ？」

「2人は幼なじみと言い張ってるけれど、あれはどう見てもカップル同然でしょ？私はこんな鈍い幼なじみと言い張るバカップル3組にかこまれてるから分かるのよ！！」

「で？」

「で、私が言いたいのは、あなたには入る隙がないの。こここの高校の人はみんな知ってるわ。あなた、何でもっと和葉さん、青子さんや蘭さんにアプローチする人がいないか気にならなかった？」

「は、はい」

「転校生には分かんないわ。あの人たちの絆をね」

「諦めます。」

「え！？え、ええ」

「その代わり」

「。。。？」

「僕と口付けをしてください。」

The Finish (前書き)

えっと、正直言って、この小説のこと忘れかけていました。すみません。

The Finish

パシッ!!

志保は山田にビンタした

「最低。」

「。。。」

「はやく消えて。」

「はい」

その後、山田は本当に転校してつた。

「はあ!? カップルを破壊するプレイボーイ!?」

「そうらしいわ。」

「でも、何であたしたちにあつてきたん? あたしらカップルちゃうで。」

「せやな」

「そうね。。。」

「せや、あたし最近メツチャ美味しいカフェ見つけたんやけど、みんなでいかへん? もちろん平次の奢りや!!」

「な、なんで俺なん?」

「服部のおごり? 俺達行く」

「じゃ、俺とアオコも」

「じゃ、決まったや! 平次よろしくな」

「せ、せやかて。。。」

「平次?」

「はい。。。」

と、言うことでめでたく一大事が終わったとさ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2275m/>

転校生には分かんない♪

2011年4月4日17時45分発行